

第 1 学年 国語科学習指導案

日 時 平成 29 年 1 月 24 日 (火) 第 5 校時
学 級 大和小学校 1 年 28 名
授業者

1 単元名 おはなしを たのしもう 「たぬきの糸車」

2 単元について

(1) 教材について

「たぬきの糸車」は、山奥の一軒家に住むきこりの夫婦の家に、たぬきがやってきていたずらをする。ある月のきれいな晩に、おかみさんがまわす糸車の音に誘われて、たぬきは糸車をまわす仕草のまねをする。おかみさんは、破れ障子から覗いたぬきの目玉と、障子に映るたぬきの姿が何とも面白く可愛く、『いたずらもんだがかわいいな』と思うようになり、ある晩、きこりの仕掛けた罠にかかったたぬきをおかみさんは、助けてやる。春になって、きこりの夫婦が小屋に戻ってくると、たぬきが上手な手つきで糸車をまわして糸をつむいでいた。思う存分糸車を回して、たぬきは嬉々として帰っていくという内容の昔話である。登場人物の行動描写が中心となった文章であり、人物の行動から場面の様子を捉えるのに適した教材である。

また、「キーカラカラ キークルクル」という糸車の回る音(擬音)と、「くるりくるり」という擬態語が、「～つれて」という言葉でつながれ、リズムカルな楽しさやユーモラスな情景を描き出している。そのため、児童は音読を重ねることで、言葉の楽しさを実感し、自然に物語の世界に入っていくことができるだろう。

物語教材の本単元で付けたい力は、「文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと」である。指導に当たっては、たぬきの会話文が一つもないという文章の特徴を利用し、挿絵や動作化、言葉から登場人物の様子について自由に想像を膨らませて読ませていく。また、物語のあらすじや難しい言葉の意味を押さえたうえで、場面ごとのたぬきの様子やおかみさんの思いを想像しながら読ませていく。

本学級の児童は、音読や動作化が好きで、自然にリズムをとりながら楽しんで音読する子が多い。一方、まだ平仮名や漢字を読むことに抵抗があり、文字を目で追いながら読むことが苦手な児童も数人いる。そこで、単元の学習に入る前から、音読カードによる家庭での音読練習を取り入れていく。

3 本時の指導にあたって

(1) 言語活動の充実を図る単元指導計画の工夫

本単元の言語活動は、「文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読もう」である。そのため、音読を多く取り入れ、「キーカラカラ キークルクル」という擬音や「くるりくるり」などの擬態語を動作化したりしながら各自のリズムで様々に読ませたい。また、挿絵と本文を対応させてたぬきの行動を読み取ることで、想像を広げ、学習プリントの吹き出しの中へおかみさんの内言を書き込ませる。

単元の終わりには、幼稚園の子に「たぬきの糸車を読み聞かせよう。」という出口を設定し、大型挿絵を使って読み聞かせをすることをめあてに学習を進めていく。

(2) 根拠をもとに自分の考えをもつための指導の工夫

叙述に即して考えをもつことができるように、おかみさんとたぬきがどこで何をしているかが分かるように挿絵や動作化を取り入れて音読させたり、具体物(破れ障子、糸車)などを用意したりする。根拠となる言葉を見つけるために、教科書の文を指差させたり、穴埋め形式のプリントに書き込ませたりする。また、形式段落の番号や○行目という言い方がどの子にも分かるように指導しておく。

(3) 考えを深め、広めるための交流の場や形態の工夫

自分の考えを発表する場では、「おかみさんは、心の中でなんてお話ししたかな。」と問いかけることで、おかみさんになって吹き出しに書きやすいようにする。また、何人かの子に話をさせ、板書に位置付けることで、書くことが苦手な子や、なかなか考えが思いつかない児童の助けとし、全員がふきだしに書くことができるようにする。

4 単元指導計画

(全9時間)

【単元の目標】 場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げ，お話を楽しみながら読むことができる。 ○話のまとまりや言葉の響きなどについて考えながら音読することができる。 ・主語と述語の関係に気をつけて読むことができる。	【読 1 (ウ)】 【読 1 (ア)】 【伝国 1イ(カ)】
--	---

(1) 単元で身につけたい力 単元の評価規準

【関】登場人物の行動を考えながら，昔話を楽しんで読もうとしている。

【読】・想像したことを基に，語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読している。(1)ア

・場面の様子や登場人物の行動について，想像を広げながら読んでいる。(1)ウ

【言】誰がなにをしたのかを的確に読み取っている。(1)イ(カ)

(2) 指導計画

次 / 時	ねらい	主な学習活動と学習課題	「読み取りの技」と 着目させたい語句・叙述
□ 1 2	学習の見通しをもち，物語を読んで感想をもつことができる。 「幼稚園の子に『たぬきの糸車』を楽しく読み聞かせてあげよう」という出口の学習に意欲をもつことができる。	・単元のめあてと本時のめあてを確認する。 「たぬきの糸車」の読み聞かせを聞いて，感想を交流しよう。 ・初発の感想を書き，交流する。 ・グループで音読をして，分からない言葉を出し合う。 様子を思いうかべながら，楽しく読もう。	A→心の中の言葉(内言) B→登場人物の会話 C→登場人物の行動 挿絵→絵 くり返し→(くり)， 擬声語，音→声，音 時間を表す言葉→時
□ 3	挿絵や文章から，きこりの夫婦がすんでいる山奥の様子を思いうかべたり，たぬきのいたずらを想像したりすることを通して，こまっている夫婦の様子を読み取ることができる。	1 本時の学習課題を確認する。 わなをしかけたきこりのふうふは，どんなことを思ったでしょう。 2 グループで全文の読みの練習をする。 3 形式段落番号をつけ，場面分けをする。 4 1場面を読み，分からない言葉の意味を話し合う。 「ある山おく」「いっけんや」「きこり」「ふうふ」「まいばんのように」「いたずら」「わな」 深めの発問 「たぬきはどんないたずらをしたかな」 5 「たぬき」にいたずらされた「きこりふうふ」の気持ちをふきだしに書いて，交流する。 6 各自で1場面を音読する。	むかし， ある月の あるばん はるになって たぬきは ・むかし，(C) ・まいばんのように(C) ・そこで，きこりは <u>わな</u> をしかけました(C)

4 本時	挿絵や「キーカラカラ キークルクル」をリズムカルに音読することや、「くるりくるり」「糸車を回すまねをする」などを動作化して、たぬきの行動を読み取ることを通して、たぬきの面白さや可愛さに気付き、ふき出しそうになったけれど、だまって糸車をまわしているおかみさんの様子を想像することができる。	1 各自で音読する。 2 2場面を音読し、本時の学習課題を確認する。 おかみさんは、糸車をまわすまねをするたぬきを見て、どうおもったでしょう。 3 おかみさんが、いつ何をしたのかを想像する。 4 糸車が回るにつれて目玉をくるりくるりとまわして、糸車をまわすまねをするたぬきの行動を読み取る。 5 糸車をまわすまねをするたぬきの様子に、たぬきをおもしろく思うおかみさんの様子を想像する。 深めの発問 「おかみさんは、だまって糸車をまわしているとき、心の中でなんてお話ししたかな。」 6 おかみさんの思いを吹き出しに書く。 7 2場面をみんなで音読し、ふきだしに書いたことを読む。	月のきれいなばん（時）絵 キーカラ キークル （音） くるりくるりした目玉が・・・のぞいていました（C）絵 くるりくるり（くり返し） 糸車をまわすまねをする（C）絵 ふき出しそうに（C） だまって（C） それからというもの（時） まいばんまいばん（くり） まねをくりかしました（C） 「いたずらもんだが、かわいいな」（B）
5	挿絵や「さけびごえ」「こわごわ」「かわいそうに・・・」「にがしてやりました」などから、おかみさんがたぬきを心配し、かわいそうに思って助けた様子を想像することができる。	1 各自で音読する。 2 3場面を音読し、本時の学習課題を確認する。 おかみさんは、たぬきをにがしてやるとき、どうおもったでしょう。 3 「キャーッ」という声はだれの声か？たぬきは何をしに来たのか想像し、ふきだしに書く。 4 こわごわいってみるおかみさんの様子を想像する。 深めの発問 「おかみさんは、どうして『いつものたぬき』だとわかったのかな。」 5 逃がしてやる時のおかみさんの思いをふきだしに書く。 6 3場面をみんなで音読する。	あるばん（時） こわごわいってみる（C） わなにかかって（C）絵 「かわいそうに。わなになんかかかるんじゃないよ。たぬきじるにされてしまうで。」（B） にがしてやりました（C）
6	挿絵や「あっとおどろきました」「はあてふしぎな。」「そっとのぞくと」「うれしくてたまらない」「おどりながら」などから、おかみさんが、キーカラカキークルクルと糸車の回る音に驚く様子と、上手な手つきで糸車をまわして糸を思う存分紡いで満足して帰っていくたぬきの様子を想像することができる。	1 各自で音読する。 2 4場面を音読し、本時の学習課題を確認する。 糸をつむいでいるたぬきを見ているおかみさんは、どうおもったでしょう。 3 おどろいたおかみさんの様子が分かるところを見つける。 4 たぬきが上手に糸をつむいでいる様子が分かるところを見つけ、おかみさんの様子を想像する。 深めの発問 「おかみさんが、いつかのたぬきだと気づいたのは、いつだろう」 5 たぬきをみているおかみさんの思いをふきだしに書く。 6 4の場面をみんなで音読する。	はるになって（時） とをあけたとき、おかみさんは、あっと おどろきました（C） 「はあて、ふしぎな。どうしたこっちゃ。」（B） キーカラ キークル （音） そっとのぞくと（C） 糸をつむいでいるのでした（C） たばねて わきにつみかさねました（C）

7	挿絵や「おかみさんがのぞいているのに気がつきました」「ぴよこんとそとにとび下りました」「うれしくてたまらないというように」「ぴよんぴよこおどりながら」などから、糸車を回して満足しているたぬきの様子とそれを見送るおかみさんの様子を想像することができる。	1 本時の学習課題を確認する。 たぬきをみおくるおかみさんは、どうおもったでしょう。 2 たぬきがしたことがわかるところを見つけ、順番にする。 3 うれしくて たまらない様子がわかるところを見つけ、おかみさんの思いを想像する。 深めの発問 「たぬきは、なにがうれしかったのかな。」 4 踊りながら帰っていくたぬきを見送るおかみさんの思いを吹き出しに書いて、交流する。 5 たぬきやおかみさんに言ってあげたいことを考え、発表する。 6 5場面をみんなで音読する。	おかみさんがのぞいているのに気が つきました（C） ぴよこん（音） うれしくてたまらない（A） ぴよんぴよこ おどりながらかえっていきました（C）
三 8	「お話の楽しさが伝わるように読み聞かせをしよう」と工夫して練習することができる。	1 本時の学習課題を確認する。 お話の楽しさが伝わるように読み方を工夫して音読しよう。 2 チームと役割分担を確認する。 3 自分が読み聞かせる段落を工夫して読む練習をする。 4 チーム全体で通して練習する。 5 互いのチームの音読を聞き合い、感想交流をする。	
9	読み聞かせの会を開くことができる。	幼稚園へ読み聞かせに行く。 ・2チームに分かれて、挿絵の拡大版を見せながら読み聞かせをする。 ・園児や保育士さんから感想を聞く。	

（３）単元を貫く言語活動

単元の課題「文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読もう。」

目的意識 幼稚園の子に「たぬきの糸車」の読み聞かせをするために、

相手意識 学級の仲間と、

場面・状況意識 「たぬきの糸車」のたぬきやおかみさんの様子を想像しながら、楽しいところを見つけて、

方法意識 話し合い、音読することを通して、

評価意識 以前の読み方と比べ、お話の様子を想像しながら楽しんで読むことができたか。

5 本時のねらい

挿絵や「キーカラカラ キークルクル」をリズムカルに音読することや、「くるりくるり」「糸車を回すまねをする」などを動作化して、たぬきの行動を読み取ることを通して、たぬきの面白さや可愛さに気づき、ふき出しそうになったけれど、だまって糸車をまわしているおかみさんの様子を想像することができる。

6 本時の展開

学習活動と児童の姿	願う児童の姿を具現するための指導・援助 根拠をもとに自分の考えをもつための指導の工夫： ア 考えを深め、広めるための交流活動の工夫：イ
1 各自で音読する。 2 2場面を指名読みし、本時の課題を確認する。 おかみさんは、糸車をまわすまねをするたぬきを見て どうおもったでしょう。 3 おかみさんが、いつ何をしているのかを想像する。 ○ 月がきれいな晩ってどんな夜かな？ ・ 電気がついているみたいに明るいの ・ まんまるくて、黄色い月が出ている ○ おかみさんは、何をしていたかな？ ・ 糸車をまわして糸をつむいでいました。 ○ どんな音がしたかな？ ・ キーカラカラ キーカラカラ ・ キークルクル キークルクル 4 糸車がまわるにつれて目玉をくるりくるりとまわして、糸車をまわすまねをするたぬきの行動を読み取る。 ○ ふと気がついたのはだれかな？ ・ おかみさん ○ 何に気が付いたのかな？ ・ 二つのくりくりした目玉 ○ 目玉は、何をのぞいていたの？ ・ おかみさん ・ 糸車がまわるころ ○ 目玉のほかに動いていたのは、どこかな？ ・ 手、しっぽ ○ たぬきはどんな気持ちかな？ ・ おもしろそう ・ 楽しそう ・ やってみたい、まわしてみたい 5 糸車をまわすまねをするたぬきを おもしろく思うおかみさんの様子を想像する。 ○ おかみさんが、ふき出しそうになったのはどうしてかな？ ・ 目玉がまわるのがおもしろい。 ・ まねをしているたぬきのかっこうがおもしろい。 ○ でも、おかみさんはふき出さなかったね。 深めの発問 「おかみさんは、だまって糸車をまわしているとき、心の中でなんてお話ししたかな？」 ・ わたしのまねをしてみたいなあ。糸車をまわしたいのかな。おもしろいから知らんぷりをしてまわそう。笑ったら逃げていってしまうかもしれない。おもしろいから、もっとみていたいなあ。 6 おかみさんの思いをふきだしに書く。 7 2場面後半を音読し、ふきだしに書いたことを読む。	ア 糸車、障子を準備しておく。 ア リズミカルに読んでいる子を指名し、音読させ、場面の様子を思い浮かぶようにする。 ア 簡単な発問をしながら、月のきれいな晩に、山奥の一軒家へ、いたずらをしにきたたぬきを想像できるようにする。 イ 「どこに書いてあるの」と問い、根拠となる文章や絵を指さしたり、プリントに書いたりできるようにする。 ア 主語を明確にする。 ア 理由を聞くことで「糸車がまわるにつれて」に着目させる。 イ 教師が糸車を回し、「くるりくるり」を動作化させることで、たぬきが思っていることを想像できるようにする。 ア 「ふときがつくと」～「おもわずふきだしそうになりましたが、だまって・・・」をペアで動作化することで、おかみさんの様子を想像する。 評価規準 【読む能力】 糸車を回すまねをするたぬきの面白さや可愛さに気付き、おかみさんがだまって糸車をまわしている様子を想像している。（ノート・発言・音読） 全員がふきだしに書けたことを教師が価値付ける。 登場人物の行動を読み取ることを通して、その心情を想像することができる。 「認識力」